

2026 年度 第 1 回市立須坂図書館協議会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 2026 年 7 月 9 日(木) 午後 2 時～3 時 30 分
- 2 開催場所 市立須坂図書館 第 1 講習室(西館 2 階)
- 3 出席委員 8 名
- 4 欠席委員 1 名
- 5 事務局 文化スポーツ課長、図書館長、管理係長
- 6 配布資料 資料 1 2025 年度 図書館事業報告
資料 2 2026 年度 図書館事業計画
- 7 会議状況 各事項について事務局説明後、質疑（◇は委員の発言、◆は事務局の発言）
 - (1) 委員長・副委員長の選出について
 - (2) 2025 年度 図書館事業報告について
 - ◇「5 図書館利用状況推移」について。新聞等の報道で本屋の減少など目にするが、本を読まなくなっているのはここ数年の傾向として顕著なのか。

◆本が読まれなくなっているのは、近年の現状ではなく、だいぶ以前からの傾向。読む冊数だけでなく、読む力も変化している。例えば、昔の小学校 5・6 年生が読んでいたような内容の本が、中学生の課題図書になっている。平成 14 年頃から絵本の読み聞かせが盛んになってきて、絵本と親しむ機会は以前より増えたが、読んで聞かせてもらった子が、成長して自分で読めるようになる、自分から読もうとすることへの移行が難しい。

◇小学生は 6 年生でも読み聞かせは好きで真剣に聞いているが、読み聞かせから自分で読むときの切り替えに難しさがあり、課題と感じている。

◇小学校では「読書ちゃれんじ」に取り組み、すでに金賞の 100 冊を超えた子どもがいる。読む事が身に付いている子にとって読書は日頃から親しんでいるものだが、読まない子との個人差、またクラス差が大きい。報告は図書館利用状況の数字だが、図書館に来ないで本を読む人が増えているのでは。スマホで電子書籍を読む人が増え、図書館へ足を運ぶ必要がない時代になっている。読み方が変わってきていると感じる。

◇近年の読書感想文コンクールでは、A I で書かかれたものが提出されたケースはあるか。見分けはつくのか。

◇読書感想文コンクールに限らず、標語コンクールなど、コンクール自体を実施するのが難しい時代になってきている。どちらが A I の文章か、読み比べても見分けはつかない。学校現場でも、生成 A I をどこまで取り入れていくのか、議論になっている。

◇県の読書感想文コンクールでは、生成A Iは使ってはいけないものではなく、コンクール応募票には執筆にあたって活用したものを記入する欄がある。ただ、「生成A Iを活用している」と記入してあっても、どう活用したかは分からない。主催者も苦慮している。

◇本にあまり興味がない人でも、課題として読んだ本が面白ければ、そこから本が好きになることがある。どんな方法であっても、取り組む事に意味がある。A Iが出してきた文章も、こんな表現方法があるのかと参考になれば、その人の糧になるのではと思う。

◆言葉を使って生きていく上で、言葉が人に与える影響を自分で感じ取る力を大切にしてほしい。読書感想文コンクールがいききっかけになってくれればと考えている。

◇「おはなしの会」にボランティアとして関わったが、見に来る人がとても少ない日もあった。読み聞かせに興味のある親子は大勢いても、図書館で「おはなしの会」を開催していることを知らない人も多いのではないかな。もう少しPRをしてほしい。広報須坂には掲載していないのか。

◇SNSは活用しないのか。紙媒体は見ない人が多い。

◆広報須坂には掲載していない。市のSNSや、図書館のInstagramでの広報を増やしていきたい。

◆子ども課で配布している「S-Kids」に図書館のページがあり、「おはなしの会」の紹介を載せている。天候や他の行事に左右されて参加人数が少ないこともあるが、毎週土曜日に必ずここでやり続けるということが大事かと思っている。

◇興味のある方は広報しなくても行くが、全く興味の無い親御さんをどう引き付けるかが大事。昨年の「おはなしびっくり箱」でイオンモールに出張したとのことだが、そういった所に行ってやるというのは一つのきっかけとして良いのでは。そこで楽しさに気付いてもらい、図書館へも来てもらうようにする。

◇「Web 利用者カード」はアプリがあるのか。

◆アプリではなくブラウザを使う。蔵書検索のサイトからログインすることで利用できる。

◇自分が借りた本の情報はそこから確認できるか。

◆過去に借りたものは確認できないが、現在借りている本や、その返却日などは確認できる。

◇他の図書館にある「読書通帳」はぜひ導入してほしい。自分で記入しなくても良いので楽。小布施町では「読書ノート」を配布しており、読んだ本を記録できるようになっている。

◆今後、自分が借りた本を蔵書検索のマイページに残せるサービスを検討している。ただし、サービスを開始した以降に借りた本のみとなる。

(3) 2026 年度 図書館事業計画について

◇「すぎかびとの本」は良い取り組み。須坂の学習をする上で、須坂の資料を必要としている。普段見つけられない本を須坂図書館で蔵書として収集してもらえるのは有難い。

◆今年度の蔵書整理では、郷土資料室と児童コーナーの整備を中心に行った。今ある施設を有効に活用し、館内をより良くしていく努力をしていく。後ほど館内をご案内するので、ぜひご意見をいただきました。

◇石川県立図書館は地域のコミュニティになっていて、若者が利用している様子があつた。須坂市は高齢者の利用が多いと思うが、ゆくゆくは地域の拠点としての図書館になっていくとよい。利用者の年齢層が高い、敷居の高い場所だというイメージになっている。須坂市民でも、小布施の図書館はきれいなのでそちらへ行くという人がいた。

◇オーディオブックのようなものは「デジとしょ信州」にあるのか。

◆「デジとしょ信州」でもオーディオブックが利用できる。

◇本は読むが、図書館の利用はほとんどしていない。市内からのアクセス面で、車で来るには道が狭く、足が向きにくくなっている。本を探すのも棚を見るのが一番よいが、実際に行ってみるのが面倒。イベントも、仕事もあるとなかなか参加できず、どんな風に行われているかイメージが掴みづらい。お話を聞くのは好きなので、見たり聞いたりしてみたいと思う。本は本屋やインターネットで買うという選択肢も広がっているし、読んだ本も新古書店ですぐ買い取ってもらえる。本を借りてまた返すというサイクルをあえて踏まえなくてもよい。今の自分の現状で本とは繋がるが、図書館という場所には足が遠のいてしまう。

◇「5 図書館利用状況推移」での貸出冊数の減少について、デジとしょ信州の利用冊数1万件弱を足しても、コロナ禍前まで回復してない。活字・本離れが顕著なものもあるが、須坂市の人口が平成10年のピークから1割減っていることの影響もかなり大きい。事業は色々と工夫をしているようなので、さらに頑張りを続けてほしい。

◇大規模改修を終えた直後であるが、昨年度はわずかな修繕工事しか行っていない。工事を我慢している部分はあるのか。故障して止まるのが一番困る。

◆工事については、本館ガスエアコンの耐用年数が過ぎているので、更新が課題になっている。

(4) その他

・特になし

5 その他

(1) 委員報酬について

委員報酬を7月末までに指定口座に振り込む予定（公務員の委員は無報酬）

(2) 次回の開催について

来年度の事業について協議したい。予算に反映させるため、10月下旬から11月中旬までに開催予定。

以上